



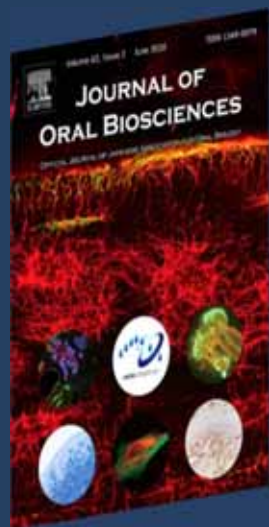
効率的な研究成果のアピール方法 について

大島 勇人

Journal of Oral Biosciences 誌副編集委員長

新潟大学大学院医歯学総合研究科

histoman@dent.niigata-u.ac.jp



Japanese Association for Oral Biology

Conflict of Interest

Author's names: Hayato Ohshima

The authors declare no conflicts of interest associated with this manuscript

Contents

- 学術ポータルサイトの活用
- 魅力的なプレゼンテーション技法
- 英語の骨格「三拍子」を論文・プレゼンに活かす方法



Key Question

私たちは、効率的に研究成果をアピールするためには どうしたら良いのでしょうか？



参考1：科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会等における議論の概要

(問題意識等)

- 「研究業績」欄に必ずしも研究課題とは関係のない業績を不必要に連ねたりする可能性など、審議過程において応募、審査の本来の在り方を歪めかねない実態があるのではないか。
- 「研究業績」欄が、応募者にとって「できるだけ多くの業績でスペースを埋めなければ審査において不利になるのではないか。」といった誤った認識を与えている可能性があるのではないか。
- **研究代表者及び研究分担者の分担内容に応じた研究遂行能力を評価するために研究業績等の確認は必要だが、研究業績等の「書かせ方」については一考の余地がある。**
- 科研費の審査に関し、あたかも業績偏重主義であるかのような認識を応募者その他に与える可能性については、できるだけ是正を試みるべきであり、そのための工夫を考慮する必要がある。
- 「研究業績」欄を引き続き活用する場合にあっては、応募者が研究遂行能力の評価に必要な情報を適切に記載できるような配慮が必要。(単に「欄を埋める」ことが重要であるかのような印象を払拭する必要がある。)
- **研究業績等による研究遂行能力の評価について、応募者、審査担当者の双方に正しい認識を醸成するよう努めることが必要。**

(研究計画調書の変更に当たっての基本的な考え方等)

- 科研費の審査は、研究代表者から提案された研究課題について、学術的独自性や創造性、研究目的の明確さ等を考慮するとともに、当該研究者の研究遂行能力をも厳正に評価し、研究課題を選定することとしている。
- 研究計画調書における研究業績の位置付けは、研究計画調書に記載された研究を遂行するに当たり、実行可能性を判断するためのもの。
- **これらの趣旨を踏まえ、研究業績の取扱いについては、当該研究計画に対する研究遂行能力を有しているかを確認するものであることを明確化する。**

○ 「応募者の研究遂行能力及び研究環境」欄に研究業績を書くことができることを明確化

研究計画調書に記載する研究業績については、当該研究計画に対する研究遂行能力を有しているかを確認するためのものであることを明確化するため、審議会等における議論を経て、平成31(2019)年度公募から「研究業績」欄を「応募者の研究遂行能力及び研究環境」欄に変更しました。

変更後の「応募者の研究遂行能力及び研究環境」欄においても、研究計画に対する研究遂行能力について説明するため、適切な研究業績を応募者が選択し記載することを想定し、審議会等における問題意識や基本的考え方等についても公募要領等において示していたところですが、一部において、当該変更により「研究業績を書けなくなった」「研究業績を書かなくてよくなった」と誤って認識されるなど、変更の趣旨が十分に浸透していない点も見受けられました。

そのため、本公募要領等において変更の趣旨(参考1参照)を改めて周知するとともに、研究計画調書上において、「応募者の研究遂行能力及び研究環境」欄の留意事項(参考2参照)として、論文を引用する場合の記載方法の例等を記載することで、研究計画に対する研究遂行能力について説明するため、適切な研究業績を応募者が選択し記載することができることをより明確にします。

科研費

公募要領

特別推進研究、基盤研究(S・A・B・C)
挑戦的研究(開拓・萌芽)、若手研究

令和元(2019)年9月1日

独立行政法人日本学術振興会
(<https://www.jps.go.jp/>)

参考2：基盤研究（C）の研究計画調書「3 応募者の研究遂行能力及び研究環境」より抜粋

留意事項

1. 研究業績（論文、著書、産業財産権、招待講演等）は、網羅的に記載するのではなく、本研究計画の
実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜記載すること。
2. 研究業績の記述に当たっては、当該研究業績を同定するに十分な情報を記載すること。
例として、学術論文の場合は論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、著書の場合
はその書誌情報、など。
3. 論文は、既に掲載されているもの又は掲載が確定しているものに限って記載すること。
4. 本留意事項（斜体の文書）は、研究計画調書の作成時には削除すること。

5 研究者情報の researchmap への登録について



researchmap (<https://researchmap.jp/>) は日本の研究者総覧として国内最大級の研究者情報データベースであり、登録した業績情報は、インターネットにより公開が可能であるほか、e-Rad や多くの大学の教員データベース等とも連携しており、政府全体でも更に活用していくこととされています。

また、科研費の審査において、researchmap 及び科学研究費助成事業データベース（KAKEN）の掲載情報を必要に応じて参照する取扱いとしますので、researchmap への研究者情報の登録をお願いします。なお、審査において researchmap の掲載情報を参照するに当たっては、researchmap に登録されている「研究者番号」により検索を行いますので、researchmap へ研究者情報を登録する際には、必ず「研究者番号」を登録してください。



大島 勇人

オオシマハヤト (Hayato Ohshima)

更新日: 08/18

研究成果として、論文、講演・口頭発表、書籍、産業財産権、Works(作品等)、社会貢献活動などの業績を管理し、発信することができるデータベース型研究者総覧

- 論文
- 研究キーワード
- 研究分野
- 経歴
- 学歴
- MISC
- 書籍等出版物
- 講演・口頭発表等
- 共同研究・競争的資金等の研究課題

メニュー

マイポータル

共著者の一覧



大島 勇人
2020-07-15
03:10:42 更新



高橋 信博
2020-07-12
15:34:40 更新



岡地 隆史
2020-06-06
00:48:19 更新



江尻 貞一
2020-06-08
11:21:11 更新



柳澤 直生
2020-06-09
15:11:30 更新



高野 古朗
2020-06-01
06:00:44 更新

もっとみる

基本情報

所属 [新潟大学 大学院医歯学総合研究科](#) 教授

学位 歯学博士(新潟大学)



通称等の別名 histoman

ORCID ID <https://orcid.org/0000-0001-8571-9900>



研究者番号 70251824

J-GLOBAL ID 200901073823395839



外部リンク <http://www.dent.niigata-u.ac.jp/anatomy1/>

主要な研究テーマは歯髄の免疫防御機構や歯の発生についての研究です。歯の発生機構や歯髄組織修復機構の解明から歯の再生へと研究を展開し、将来の歯や歯周組織の再生医療に繋がる研究をするのが目標です。



論文 193

[Functional Expression of Sodium-Dependent Glucose Transporter in Amelogenesis](#)

H. Ida-Yonemochi, K. Otsu, H. Harada, H. Ohshima

Journal of Dental Research in press 002203452091613 - 002203452091613 2020年7月28日 査読有り

[Msx1 deficiency interacts with hypoxia and induces a morphogenetic regulation during mouse lip development.](#)

Mitsushiro Nakatomi, Kerstin U Ludwig, Michael Knapp, Ralf Kist, Steven Lisgo, Hayato Ohshima, Elisabeth Mangold, Heiko Peters

Development (Cambridge, England) 147(21) dev189175 2020年6月24日 査読有り

[Reduced enamel epithelium-derived cell niche in the junctional epithelium is maintained for a long time in mice](#)

Miki Soda, Kotaro Saito, Hiroko Ida-Yonemochi, Kuniko Nakakura-Ohshima, Shinichi Kenmotsu, Hayato Ohshima

Journal of Periodontology 91(6) 819 - 827 2020年6月22日 査読有り

論文 193

外部システムからのデータ取り込み

AI (人工知能) 共著者 代理人 機関担当者

編集

外部システムからのデータ取り込み

選択した行... 総件数 193 表示件数 20件 並び替え + 追加

論文リスト:

- [Functional Expression of Sodium-Dependent Glucose Transporter in Amelogenesis](#)
H. Ida-Yonemochi, K. Otsu, H. Harada, H. Ohshima
Journal of Dental Research in press 002203452091613 - 002203452091613 2020年7月28日 **登録有り**
- [Max1 deficiency interacts with hypoxia and induces a morphogenetic regulation during mouse lip development.](#)
Mitsushiro Nakatomi, Kerstin U Ludwig, Michael Knapp, Ralf Kist, Steven Lisgo, Hayato Ohshima, Elisabeth Mangold, Heiko Peters
Development (Cambridge, England) 147(21) dev189175 2020年6月24日 **登録有り**
- [Reduced enamel epithelium-derived cell niche in the junctional epithelium is maintained for a long time in mice](#)
Miki Soda, Kotaro Saito, Hiroko Ida-Yonemochi, Kuniko Nakakura-Ohshima, Shinichi Kenmotsu, Hayato Ohshima
Journal of Periodontology 91(6) 819 - 827 2020年6月22日 **登録有り**
- [Adjunct use of mouth rinses with a sonic toothbrush accelerates the detachment of a Streptococcus mutans biofilm: an in vitro study.](#)
Tatsuya Ohsumi, Shoji Takenaka, Yuuki Sakaue, Yuki Suzuki, Ryoko Nagata, Taisuke Hasegawa, Hayato O Yutaka Terao, Yuichiro Noiri
BMC oral health 20(1) 161 - 161 2020年6月3日 **登録有り**
- [Immunohistochemistry and gene expression of GLUT1, RUNX2 and MTOR in reparative dentinogenesis](#)
Ryosuke Takeuchi, Naoto Ohkura, Kunihiko Yoshida, Aiko Tohma, Nagako Yoshida, Naoki Edanami, Mari Saifullah Ibn Belal, Hayato Ohshima, Yuichiro Noiri
Oral diseases 26(2) 341 - 349 2020年3月 **登録有り**

研究者が設定する権限により、本人以外が業績情報を更新し、研究者の負担なく業績情報の蓄積ができる。AIは業績を自動的に収集し、研究者の業績の追加や業績情報の足りない項目を補完する。

論文・Miscの取り込み

- DBLP
- PubMed
- ORCID
- Web of Science
- CiNii Articles
- arXiv
- Scopus
- 医中誌Web








論文リスト (詳細):

- 編集** **削除** **重要** **公開**
[Functional Expression of Sodium-Dependent Glucose Transporter in Amelogenesis](#)
H. Ida-Yonemochi, K. Otsu, H. Harada, H. Ohshima
Journal of Dental Research in press 002203452091613 - 002203452091613 2020年7月28日 **登録有り**
登録: AI 03/25 更新: 本人 08/17
- 編集** **削除** **重要** **公開**
[Max1 deficiency interacts with hypoxia and induces a morphogenetic regulation during mouse lip development.](#)
Mitsushiro Nakatomi, Kerstin U Ludwig, Michael Knapp, Ralf Kist, Steven Lisgo, Hayato Ohshima, Elisabeth Mangold, Heiko Peters
Development (Cambridge, England) 147(21) dev189175 2020年6月24日 **登録有り**
登録: AI 06/05 更新: 本人 08/17
- 編集** **削除** **重要** **公開**
[Reduced enamel epithelium-derived cell niche in the junctional epithelium is maintained for a long time in mice](#)
Miki Soda, Kotaro Saito, Hiroko Ida-Yonemochi, Kuniko Nakakura-Ohshima, Shinichi Kenmotsu, Hayato Ohshima
Journal of Periodontology 91(6) 819 - 827 2020年6月22日 **登録有り**
登録: 本人 2019/11/07 更新: 本人 08/17
- 編集** **削除** **重要** **公開**
[Adjunct use of mouth rinses with a sonic toothbrush accelerates the detachment of a Streptococcus mutans biofilm: an in vitro study.](#)
Tatsuya Ohsumi, Shoji Takenaka, Yuuki Sakaue, Yuki Suzuki, Ryoko Nagata, Taisuke Hasegawa, Hayato Ohshima, Yutaka Terao, Yuichiro Noiri
BMC oral health 20(1) 161 - 161 2020年6月3日 **登録有り**
登録: AI 05/29 更新: 本人 08/17

PubMedから、あなたの英論文を取り込むことができます。

取り込み先 論文 MISC

総件数 103

著者

Hayato Ohshima

キーワード



- Adjunct use of mouth rinses with a sonic toothbrush accelerates the detachment of a Streptococcus mutans biofilm: an in vitro study.
Tatsuya Ohsumi, Shoji Takenaka, Yuuki Sakaue, Yuki Suzuki, Ryoko Nagata, Taisuke Hasegawa, Hayato Ohshima, Yutaka Terao, Yuichiro Noiri
BMC oral health 20(1) 161 - 161 2020年6月3日
- Msx1 deficiency interacts with hypoxia and induces a morphogenetic regulation during mouse lip development.
Mitsushiro Nakatomi, Kerstin U Ludwig, Michael Knapp, Ralf Kist, Steven Lisgo, Hayato Ohshima, Elisabeth Mangold, Heiko Peters
Development (Cambridge, England) 147(21) 2020年6月24日
- The annual review 2019.
Norio Amizuka
sciences 62(1) 1 - 8 2020年3月

Web of Scienceから、あなたの論文を取り込むことができます。



ID 7202879991

検索

取り込み先 自動 論文 MISC

総件数 165

- Functional Expression of Sodium-Dependent Glucose Transporter in Amelogenesis
H. Ida-Yonemochi, K. Otsu, H. Harada, H. Ohshima
Journal of Dental Research 99(8) 977 - 986 2020年7月1日
- Msx1 deficiency interacts with hypoxia and induces a morphogenetic regulation during mouse lip development
Mitsushiro Nakatomi, Kerstin U. Ludwig, Michael Knapp, Ralf Kist, Steven Lisgo, Hayato Ohshima, Elisabeth Mangold, Heiko Peters
Development (Cambridge, England) 147(21) 2020年6月24日
- Adjunct use of mouth rinses with a sonic toothbrush accelerates the detachment of a Streptococcus mutans biofilm: An in vitro study
Tatsuya Ohsumi, Shoji Takenaka, Yuuki Sakaue, Yuki Suzuki, Ryoko Nagata, Taisuke Hasegawa, Hayato Ohshima, Yutaka Terao, Yuichiro Noiri
BMC Oral Health 20(1) 2020年6月3日
- Reduced enamel epithelium-derived cell niche in the junctional epithelium is maintained for a long time in mice
Miki Soda, Kotaro Saito, Hiroko Ida-Yonemochi, Kuniko Nakakura-Ohshima, Shinichi Kenmotsu, Hayato Ohshima
Journal of Periodontology 91(6) 819 - 827 2020年6月1日
- Oral biosciences: The annual review 2019
Hayato Ohshima, Norio Amizuka
Journal of Oral Biosciences 62(1) 1 - 8 2020年3月
- Immunohistochemistry and gene expression of GLUT1, RUNX2 and MTOR in reparative dentinogenesis
Ryosuke Takeuchi, Naoto Ohkura, Kunihiko Yoshida, Aiko Tohma, Nagako Yoshida, Naoki Edanami, Mari Shirakashi, Razi Saifullah Ibn Belal, Hayato Ohshima, Yuichiro Noiri
Oral Diseases 26(2) 341 - 349 2020年3月1日

著者

Hayato Ohshima



検索

取り込み先 論文 MISC

総件数 93

- Correlations between alveolar bone microstructure and bone turnover markers in pre- and post-menopausal women
Emi Yamashita-Mikami, Mikako Tanaka, Naoki Sakurai, Yoshiaki Arai, Akira Matsuo, Hayato Ohshima, Shuichi Nomura, Sadakazu Ejiri
ORAL SURGERY ORAL MEDICINE ORAL PATHOLOGY ORAL RADIOLOGY 115(4) E12 - E19 2013年4月
- Differences in Healing Patterns of the Bone-Implant Interface between Immediately and Delayed-Placed Titanium Implants in Mouse Maxillae
Taisuke Watanabe, Eizo Nakagawa, Kotaro Saito, Hayato Ohshima
CLINICAL IMPLANT DENTISTRY AND RELATED RESEARCH 18(1) 146 - 160 2016年2月
- Penetration kinetics of four mouthrinses into Streptococcus mutans biofilms analyzed by direct time-lapse visualization
Rika Wakamatsu, Shoji Takenaka, Tatsuya Ohsumi, Yutaka Terao, Hayato Ohshima, Takashi Okiji
CLINICAL ORAL INVESTIGATIONS 18(2) 625 - 634 2014年3月
- Pulpal Regeneration Following Allogenic Tooth Transplantation into Mouse Maxilla
Hideki Urno, Hironobu Suzuki, Kuniko Nakakura-Ohshima, Han-Sung Jung, Hayato Ohshima
ANATOMICAL RECORD-ADVANCES IN INTEGRATIVE ANATOMY AND EVOLUTIONARY BIOLOGY 292(4) 570 - 579 2009年4月



CiNiiに保存されている約2,000万件の論文データから、あなたの論文を
取り込み後は、Miscに保存されます。
フィード後、必要に応じて、論文の項目に移動することもできます。

著者検索 論文検索

著者

キーワード

ID

1000070251824

取り込み先

論文 MISC

HYORON FORUM 歯学の行方 歯科における再生医療の行方
大島 勇人
日本歯科評論 77(7) 11 - 13 2017年7月

象牙質・歯髄複合体の科学：発生、解剖、加齢変化および治療機構（特集 1つ上を目指す歯内療法へのアプローチ(4)抜髄
(Initial Treatment)(基礎編))
大島 勇人
日本歯科評論 74(6) 41 - 56 2014年6月

医中誌Webから、あなたの論文を取り込むことができます。

著者

大島 勇人

キーワード

医中誌Web

Japan Medical Abstracts Society

検索

取り込み先

論文 MISC

総件数 459

口腔の筋肉のしくみとはたらき 臨床に活かす解剖学アトラス(第2回) 顔にある筋肉 口の周囲の筋肉
大島 勇人
デンタルハイジーン 40(7) 773 - 777 2020年7月

当科における早期胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘術の再建手技と成績
下田 陽太, 山田 貴允, 公盛 啓介, 渡邊 勇人, 神尾 一樹, 藤川 寛大, 勝又 健次, 土田 明彦, 尾形 高士, 大島 貴
日本消化管学会雑誌 4(Suppl.) 261 - 261 2020年1月

高齢者に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術における術後合併症
神尾 一樹, 山田 貴允, 公盛 啓介, 渡邊 勇人, 下田 陽太, 藤川 寛大, 尾形 高士, 大島 貴
日本腹部救急医学会雑誌 40(2) 391 - 391 2020年2月

腹腔鏡下胃切除術における術後合併症発症のリスク因子
下田 陽太, 山田 貴允, 公盛 啓介, 渡邊 勇人, 神尾 一樹, 藤川 寛大, 勝又 健次, 土田 明彦, 尾形 高士, 大島 貴
日本腹部救急医学会雑誌 40(2) 317 - 317 2020年2月

口腔の筋肉のしくみとはたらき 臨床に活かす解剖学アトラス(第1回) 顔にある筋肉 筋肉の概要と表情筋
大島 勇人
デンタルハイジーン 40(6) 586 - 591 2020年6月

当科における早期胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘術の再建手技と成績
下田 陽太, 山田 貴允, 公盛 啓介, 渡邊 勇人, 神尾 一樹, 藤川 寛大, 尾形 高士, 大島 貴
日本内視鏡外科学会雑誌 24(7) MO248 - 3 2019年12月

Reduced enamel epithelium-derived cell niche in the junctional epithelium is maintained for a long time in mice

Miki Soda¹ | Kotaro Saito² | Hiroko Ida-Yonemochi² | Kuniko Nakakura-Ohshima¹ | Shinichi Kenmotsu² | Hayato Ohshima² 

Hayato Ohshima

ORCID ID

<https://orcid.org/0000-0001-8571-9900>

Print view



Other IDs

Loop profile: 18059

Researcher Name Resolver ID: 100007025182

Scopus Author ID: 7202879991



Works (50 of 174)

Sort

Items per page: 50 1 - 50 of 174

Functional Expression of Sodium-Dependent Glucose Transporter in Amelogenesis

Journal of Dental Research

2020-07-28 | journal-article

DOI: 10.1177/0022034520916130



★ Preferred source (of 3)

Reduced enamel epithelium-derived cell niche in the junctional epithelium is maintained for a long time in mice

Journal of Periodontology

2020-06-22 | journal-article

DOI: 10.1002/JPER.19-0269

Source: Crossref

Peer review (13)

review activity for Anatomical Science International(1)

review activity for Cell biochemistry and function.(2)

review activity for Cell proliferation.(3)

review activity for Congenital Anomalies(2)

review activity for European journal of oral sciences.(1)

review activity for International endodontic journal.(6)

Open Researcher & Contributor ID

- 研究者の一意的識別子を通じて、研究者の負担を軽減する学術基盤の構築を目指す。
- 多くの国際ジャーナルで、投稿時のORCID電子認証が義務化または推奨されている。



MY FRONTIERS



Hayato Ohshima



Hayato Ohshima

Doctorate
Niigata University
Niigata, Japan

Frontiers Research Network - Loop

Loop is Frontiers' next generation social network for researchers, academics and scholars. We are the only open network that integrates into journals and academic websites. To start, we are integrated into both the Nature Publishing Group and Frontiers' journal series.



Overview

Bio

19
Network

153
Publications

3
Editorial Contributions

Impact

Brief Bio

Hayato Ohshima, D.D.S., Ph.D.: Dr. Ohshima is an anatomist who specializes in the oral anatomy and oral histology & development. He graduated from Faculty of Dentistry, Niigata University, passed the National Examination for Dental Practitioners (D.D.S.), and received a Ph.D. from Niigata University Graduate School of Dentistry. His research has focused on pulp biology and tooth development: He aims at the realization of pulpal or/and periodontal tissue regeneration on the basis of clarification of the mechanisms regulating the pulpal healing following tooth injuries such as cavity preparation and tooth replantation/transplantation in addition to the tooth development.

Dr. Ohshima is an educational and research professor in the Faculty of Dentistry, Niigata University and the Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Division of Anatomy and Cell Biology of the Hard Tissue).

Dr. Ohshima serves on the executive committee of the Japanese Association for Oral Biology and the Editor-in-Chief of Journal of Oral Biosciences. In addition, he belongs to several academic societies: International Association for Dental Research (IADR), Japanese Association of Anatomists, International Society of Histology and Cytology, Japanese Society of Microscope, Japanese Dental Education Association, and Niigata Dental Society. He has more than 120 publications in the PubMed and has refereed manuscripts for more than 30 journals.

Expertise

Type an expertise tag +

- Dental Pulp
- Odontoblasts
- Tooth Replantation
- antimicrobials
- Mice (ICR)
- Periodontal Ligament
- development
- ultrastructure
- mechanoreceptor
- Ruffini ending
- Osteopontin
- laser
- calcification
- Dentin matrix protein 1
- Rats (Wistar)

Specialty Add

- Science
- Physiology

著者詳細

- 査読文献(ジャーナル、書籍、会議録)を収録する世界最大級の抄録・引用文献データベース。
- 科学的発見を目指す研究者、研究を評価する大学や政府機関にとって最適な抄録・引用文献データベース。


Ohshima, Hayato

 <http://orcid.org/0000-0001-8571-9900>

所属機関: 

Niigata University, Niigata, Japan [さらに表示](#) 

分野:

- [Medicine](#) [Biochemistry, Genetics and Molecular Biology](#) [Dentistry](#) [Agricultural and Biological Sciences](#) [Physics and Astronomy](#)
[Health Professions](#) [Multidisciplinary](#) [Engineering](#) [Neuroscience](#) [Materials Science](#) [Chemical Engineering](#) [すべて表示](#) 

文献数

165

被引用数の合計

3052回 (2166件の文献による)

h-index 

30

文献数と被引用数のトレンド:



165 件の文献

2166 件の文献による被引用

300 人の共著者

トピック

ユーザーのプレビュー機能は著者の最近10件の文献を表示できます。 [4412 件の参考文献を表示](#)

プロフィールの操作

 [著者プロフィールを編集](#)

 [ORCIDに接続](#)

 Alerts

[引用アラートを設定](#)

[文献アラートを設定](#)

 [Scopusプロフィールについて](#)

HO

Hayato Ohshima 

165 文献数

[Mendeleyプロフィールを表示](#)

研究者 J-GLOBAL ID : 200901073823395839

更新日: 2020年08月18日

大島 勇人

オオシマ ハヤト | Ohshima Hayato

この研究者にコンタクトする

所属機関・部署: [新潟大学 大学院医歯学総合研究科](#)

職名: 教授

ホームページURL (2件): <http://www.dent.niigata-u.ac.jp/anatomy1/>, <http://www.dent.niigata-u.ac.jp/anatomy1/>

研究分野 (1件): 常感系口腔科学

研究キーワード (6件): 口腔組織発生学, 口腔解剖学, インプラント学, 硬組織, 歯の発生生物学, 歯髄生物学

競争的資金等の研究課題 (57件):

- 2020 - 2022 他家歯胚移植実験を用いた接合上皮の由来・維持機構の解明と接合上皮幹細胞の同定
- 2019 - 2022 アスコルビン酸輸送担体を介した象牙芽細胞分化を促進させる歯髄再生メカニズムの解明
- 2019 - 2022 解剖体頭部CTによる舌神経3次元的走行経路と筋間隙との関係性の解明
- 2018 - 2021 歯髄治癒過程におけるマクロファージ・歯髄幹細胞・再生神経のクロストークの解明
- 2017 - 2020 プロテオミクス解析を応用した歯髄前駆細胞/静的幹細胞の恒常性維持と活性化の解明

全件表示

論文 (23件):

- Ida-Yonemochi H, Nakagawa E, Takata H, Furuyashiki T, Kakutani R, Tanaka M, Ohshima H. Extracellular enzymatically synthesized glycogen promotes osteogenesis by activating osteoblast differentiation via Akt/GSK-3 β signaling pathway. *Journal of cellular physiology*. 2019. 234. 8. 13602-13616
- Tetsuro Nakaki, Kuniko Nakakura-Ohshima, Eizo Nakagawa, Yuko Ishikawa, Kotaro Saito, Hiroko Ida-Yonemochi, Hayato Ohshima. Donor-host tissue interaction in allogenic transplanted tooth germ with special reference to periodontal tissue. *Journal of Oral Biosciences*. 2018. 60. 1. 21-30
- Kasahara N, Morita W, Tanaka R, Hayashi T, Kenmotsu S, Ohshima H. The Relationships of the Maxillary Sinus With the Superior Alveolar Nerves and Vessels as Demonstrated by Cone-Beam CT Combined With μ -CT and Histological Analyses. *Anatomical record (Hoboken, N.J. : 2007)*. 2016. 299. 5. 669-78
- Morita W, Morimoto N, Ohshima H. Exploring metameric variation in human molars: a morphological study using

- 異分野の「知」を探索し、新しい発想、シーズにつなぐ。
- JST内外の良質な科学技術情報から意外な発見や異分野の知を入手する機会を提供する。
- 産学連携や研究開発の初期段階および計画立案時におけるアイデア探しやきっかけ作りなどに活用する。

詳細情報

- 研究者 ホームページ
- 研究者 ホームページ
- researchmap
- KAKEN**
科学研究費助成事業データベース
- National Diet Library
国会図書館サーチ

研究者

この研究者の研究内容に近い研究者

この研究者の研究内容に近い文献

この研究者の研究内容に近い特許

この研究者の研究内容に近い研究課題

この研究者が著者と推定される文献

この研究者が発明者と推定される特許

大島 勇人 OHSIMA Hayato

KAKEN

科学研究費助成事業データベース

研究者番号

70251824



researchmap



その他のID



ORCID ID: <https://orcid.org/0000-0001-8571-9900>

外部サイト



所属 (現在)

2020年度: 新潟大学, 医歯学系, 教授

所属 (過去の研究課題
情報に基づく) *注記

2004年度 - 2020年度: 新潟大学, 医歯学系, 教授
2015年度: 新潟大学, 医歯学系, 教授
2001年度 - 2004年度: 新潟大学, 大学院・医歯学総合研究科, 教授
2002年度: 新潟大学, 大学院・医歯学総合研究科, 講師
2001年度: 新潟大学, 大学院・医歯学部総合研究科, 教授 ...▼ もっと見る

審査区分/研究分野

研究代表者

形態系基礎歯科学 / 形態系基礎歯科学 / 保存治療系歯学 / 中区分57:口腔科学およびその関連分野

研究代表者以外

保存治療系歯学 / 形態系基礎歯科学 / 矯正・小児系歯学 / 形態系基礎歯科学 / 矯正・小児・社会系歯学 / 病態科学系歯学・歯科放射線学 ...▼ もっと見る

キーワード

研究代表者

歯髄 / 象牙牙細胞 / BrdU / 歯の再植 / 免疫組織化学 / 抗原提示細胞 / ラット / 窩洞形成 / 歯の移植 / 幹細胞ニッチ ...▼ もっと見る

研究課題 (57件)

研究成果 (387件)

共同研究者 (110人)

「研究課題をさがす」で表示

テキスト(CSV)で出力

研究開始年: 新しい順 ▼

他家歯胚移植実験を用いた接合上皮の由来・維持機構の解明と接合上皮幹細胞の同定

研究代表者

継続中

研究代表者

大島 勇人

研究期間 (年度)

2020 - 2021

研究種目

挑戦的研究(萌芽)

Web of Science

Clarivate Analytics

Search

Tools - Searches and alerts - Search History - Marked List

Results: 2 author records BETA
 (From Web of Science Core Collection)

Refine results

Sorted by Relevance

Select all Select records that contain documents by the same author [View Combined Record](#)

1 **Ohshima, H.**
 Alternative names: Ohshima, Hayato Ohshima, H. more...
 Niigata University
 Grad Sch Med & Dent Sci
 NIIGATA, JAPAN

Documents	Years	Top Journals
149	1990 - 2020	JOURNAL OF ORAL BIOSCIENCES, CELL AND TISSUE RESEARCH, ARCHIVES OF HISTOLOGY AND CYTOLOGY

Recent publications

2 **Ohshima, Hayato**
 Alternative name: Ohshima, H.
 Niigata University
 Grad Sch Med & Dent Sci
 NIIGATA, JAPAN

Documents	Years	Top Journals
18	1988 - 2020	JOUR DENTA

Recent publications

1. **Ohshima, Hayato** Web of Science ResearcherID: AAW-5545-2020

Alternative names: Ohshima, H. Ohshima, H. more...
 Niigata University
 Grad Sch Med & Dent Sci
 NIIGATA, JAPAN

Documents	Years	Top Journals
157	1989 - 2020	JOURNAL OF ORAL BIOSCIENCES, CELL AND TISSUE RESEARCH, ARCHIVES OF HISTOLOGY AND CYTOLOGY

Recent publications

Web of Science

Your Web of Science author record corrections have been accepted

Your author record corrections have been accepted

Thank you for submitting the following corrections to a Web of Science author record for Ohshima Hayato. Your suggestions have been reviewed and accepted by our team* and will be visible in the Web of Science as soon as possible. Please note it may take up to 48 hours for your corrections to be processed.

Task ID: 5d2421c4-9a8a-4ce4-a5ab-b1ad672476b5

Summary of your corrections:

Web of Science

• 同一の研究者が複数の研究者IDを所有しているときは、記録を統合するリクエストを送る。

1. **Ohshima, Hayato** Web of Science ResearcherID: AAW-5545-2020

Alternative names: Ohshima, H. Ohshima, H. more...
 Niigata University
 Grad Sch Med & Dent Sci
 NIIGATA, JAPAN

Top Journals

JOURNAL OF ORAL BIOSCIENCES, CELL AND TISSUE RESEARCH, ARCHIVES OF HISTOLOGY AND CYTOLOGY

Ohshima, Hayato

Claimed by the author BETA

publons

View Full Profile on Publons

Niigata University
Grad Sch Med & Dent Sci
NIIGATA, JAPAN

Web of Science ResearcherID: AAW-5545-2020

Alternative names: Ohshima, Hayato Ohshima, H Ohshi

Organizations:

1990-2020 Niigata University
2017-2017 Kagoshima University

- H-indexとは、物理学者ジョージ・E・ハーシュが引用索引データベースWeb of ScienceのTimes Cited (被引用数) を元に考案した指標で、論文数と被引用数とに基づいて、科学者の研究に対する相対的な貢献度を示すものである。
- 「その研究者が公刊した論文のうち、被引用数がh以上であるものがh以上あることを満たすような最大の数値」
- 当該研究者の論文の量 (論文数) と論文の質 (被引用数) とを同時に1つの数値で表すことができるという利点を持つ。

157 publications from Web of Science Core Col

Sorted by Date: newest first Filter By: All Publications

Adjunct use of mouth rinses with a sonic toothbrush accelerates the detachment of a Streptococcus mutans biofilm: an in vitro study

Ohsumi, Tatsuya ; Takenaka, Shoji ; Sakaue, Yuuki ...More

BMC ORAL HEALTH

Volume 20 Issue 1 Published 2020

TIMES CITED
0

Functional Expression of Sodium-Dependent Glucose Transporter in Amelogenesis

Ida-Yonemochi, H. ; Otsu, K. ; Harada, H. ...More

JOURNAL OF DENTAL RESEARCH

Published 2020

TIMES CITED
0

Oral biosciences: The annual review 2019

Ohshima, Hayato ; Amizuka, Norio

JOURNAL OF ORAL BIOSCIENCES

Volume 62 Issue 1 Page 1-8 Published 2020

TIMES CITED
0

Effect of a novel glass ionomer cement containing fluoro-zinc-silicate fillers on biofilm formation and dentin ion incorporation

Hasegawa, Taisuke ; Takenaka, Shoji ; Ohsumi, Tatsuya ...More

CLINICAL ORAL INVESTIGATIONS

Volume 24 Issue 2 Page 963-970 Published 2020

TIMES CITED
1

Verify Your Author Record

Get your own verified author record by clicking "Claim This Record" on your author record page. Search for your author record.

Citation Network

H-index

31

H-index

Sum of Times Cited

2,899

総被引用数

Citing Articles

2,029

[View full Citation Report](#)

Author Position

First 18%

筆頭著者論文

Last 38%

Corresponding 50%

責任著者論文

Author Network

Web of Science



Search Search Results

Tools Searches and alerts Search History Marked List

Citation report for 142 results from Web of Science Core Collection between 1977 and 2021 Go

You searched for: Article Group for: Ohshima, H. ...More

This report reflects citations to source items indexed within Web of Science Core Collection. Perform a Cited Reference Search to include citations to items not indexed within Web of Science Core Collection.

Export Data: Save to Excel File

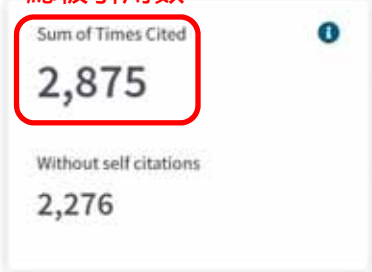
論文数



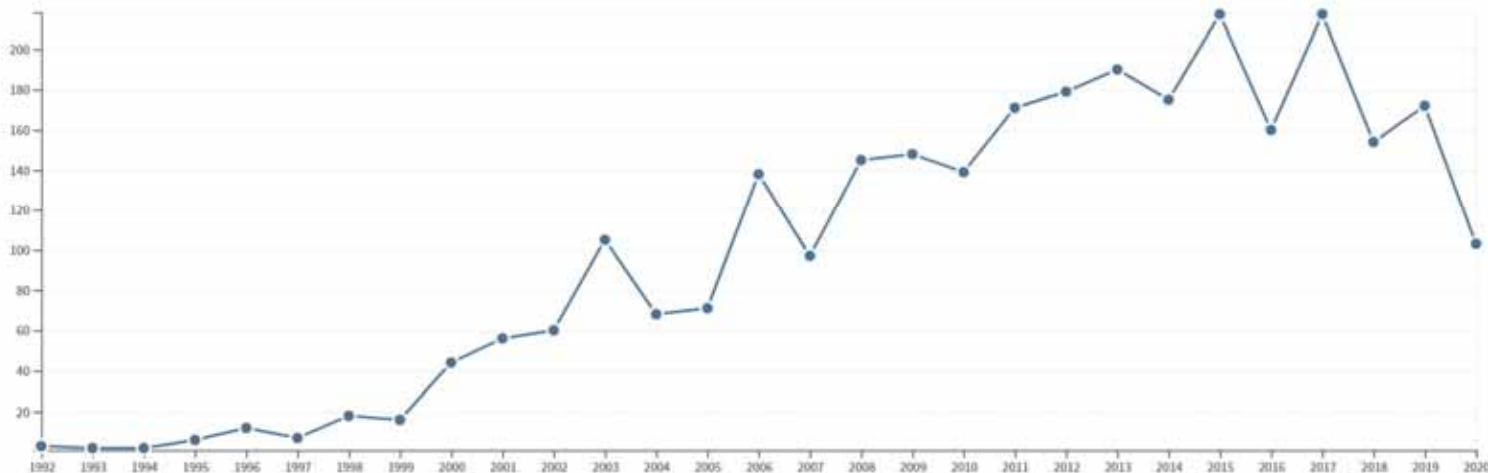
H-index



総被引用数



Sum of Times Cited per Year



Use the checkboxes to remove individual items from this Citation Report.

or restrict to items published between 1977 and 2021 Go

	2017	2018	2019	2020	2021	Total	Average Citations per Year
	217	154	172	103	0	2875	99.14
<input type="checkbox"/> 1. Msx2 deficiency in mice causes pleiotropic defects in bone growth and ectodermal organ formation By: Satokata, I; Ma, L; Ohshima, H; et al. NATURE GENETICS Volume: 24 Issue: 4 Pages: 391-395 Published: APR 2000	14	19	9	11	0	546	26.00
<input type="checkbox"/> 2. Tissue response to titanium implants in the rat maxilla: Ultrastructural and histochemical observations of the bone-titanium interface By: Futami, T; Fujii, N; Ohnishi, H; et al. JOURNAL OF PERIODONTOLOGY Volume: 71 Issue: 2 Pages: 287-298 Published: FEB 2000	5	3	5	1	0	93	4.43
<input type="checkbox"/> 3. Cessation of Fgf10 signaling, resulting in a defective dental epithelial stem cell compartment, leads to the transition from crown to root formation By: Yokohama-Tamaki, T; Ohshima, H; Fujiwara, N; et al. DEVELOPMENT Volume: 133 Issue: 7 Pages: 1359-1366 Published: APR 1 2006	3	6	1	3	0	86	5.73
<input type="checkbox"/> 4. Immunohistochemical analysis of nestin, osteopontin, and proliferating cells in the reparative process of exposed dental pulp capped with mineral trioxide aggregate By: Kuratate, Momoko; Yoshibi, Kunibiko; Sbigetani, Yoshibi; et al. JOURNAL OF ENDODONTICS Volume: 34 Issue: 8 Pages: 970-974 Published: AUG 2008	8	4	4	5	0	77	5.92
<input type="checkbox"/> 5. The eternal tooth germ is formed at the apical end of continuously growing teeth By: Ohshima, H; Nakasone, N; Hashimoto, E; et al. ARCHIVES OF ORAL BIOLOGY Volume: 50 Issue: 2 Pages: 153-157 Published: FEB 2005	2	5	3	1	0	67	4.19
<input type="checkbox"/> 6. New perspectives on tooth development and the dental stem cell niche By: Harada, H; Ohshima, H ARCHIVES OF HISTOLOGY AND CYTOLOGY Volume: 67 Issue: 1 Pages: 1-11 Published: MAR 2004	5	0	2	2	0	65	3.82
<input type="checkbox"/> 7. ULTRASTRUCTURAL-CHANGES IN ODONTOBLASTS AND PULP CAPILLARIES FOLLOWING CAVITY PREPARATION IN RAT MOLARS By: OHSHIMA, H ARCHIVES OF HISTOLOGY AND CYTOLOGY Volume: 53 Issue: 4 Pages: 423-438 Published: OCT 1990	4	2	2	0	0	52	1.68
<input type="checkbox"/> 8. POSTNATAL-DEVELOPMENT OF PERIODONTAL RUFFINI ENDINGS IN RAT INCISORS - AN IMMUNOELECTRON MICROSCOPIC STUDY USING PROTEIN-GENE-PRODUCT-9.5 (PGP-9.5) ANTIBODY By: NAKAKURAOHSHIMA, K; MAEDA, T; OHSHIMA, H; et al. JOURNAL OF COMPARATIVE NEUROLOGY Volume: 362 Issue: 4 Pages: 551-564 Published: NOV 27 1995	1	0	1	0	0	50	1.92
<input type="checkbox"/> 9. Stratum intermedium lineage diverges from ameloblast lineage via Notch signaling By: Harada, H; Ichimori, Y; Yokohama-Tamaki, T; et al. BIOCHEMICAL AND BIOPHYSICAL RESEARCH COMMUNICATIONS Volume: 340 Issue: 2 Pages: 611-616 Published: FEB 10 2006	4	7	2	1	0	48	3.20

Yamanaka, Shinya

CLAIM THIS RECORD

BETA

Web of Science

Unclaimed - This is an algorithmically generated author record

The J David Gladstone Institutes
Ctr iPS Cell Res & Applicat
SAN FRANCISCO, CA, USA

Alternative names: Yamanaka, Shinya Yamanaka, S Yamanaka, S.

Organizations:

- 2010-2020 University of California San Francisco
- 2007-2020 The J David Gladstone Institutes
- 2005-2020 Kyoto University
- 2014-2014 Roddenberry Ctr Stem Cell Biol & Med Gladstone
- 2014-2014 Ctr iPS Cell Res & Applicat

View more organizations +

Are you this Author?

If you're the author of this record, click "Claim This Record" to verify its documents. When you update your publications list on publons.com, it automatically sends a request to update this author record

Claim This Record

Citation Network

H-index

85

H-index

Sum of Times Cited

58,505

総被引用数

Citing Articles

31,882

View full Citation Report

Author Position

First 10%



Last 33%



Corresponding 21%



284 publications from Web of Science Core Collection

View as a set of results to export, analyze, and link to full text

Sorted by Date: newest first

Filter By: All Publications

1 of 6

Critical Roles of Translation Initiation and RNA Uridylation in Endogenous Retroviral Expression and Neural Differentiation in Pluripotent Stem Cells

TIMES CITED

0

Takahashi, Kazutoshi ; Jeong, Daeun ; Wang, Songnan ...More

CELL REPORTS

Volume 31 Issue 9 Published 2020

Base-Resolution Methylome of Retinal Pigment Epithelial Cells Used in the First Trial of Human Induced Pluripotent Stem Cell-Based Autologous Transplantation

TIMES CITED

0

Araki, Hiromitsu ; Miura, Fumihito ; Watanabe, Akira ...More

STEM CELL REPORTS

Volume 13 Issue 4 Page 761-774 Published 2019

Induced 2C Expression and Implantation-Competent Blastocyst-like Cysts from Primed Pluripotent Stem Cells

TIMES CITED

6

Kime, Cody ; Kiyonari, Hiroshi ; Ohtsuka, Satoshi ...More

STEM CELL REPORTS

Use the checkboxes to remove individual items from this Citation Report

or restrict to items published between and

- 1. **Induction of pluripotent stem cells from mouse embryonic and adult fibroblast cultures by defined factors**
 By: Takahashi, Kazutoshi; Yamanaka, Shinya
 CELL Volume: 126 Issue: 4 Pages: 663-676 Published: AUG 25 2006
- 2. **Induction of pluripotent stem cells from adult human fibroblasts by defined factors**
 By: Takahashi, Kazutoshi; Tanabe, Koji; Ohnuki, Mari; et al.
 CELL Volume: 131 Issue: 5 Pages: 861-872 Published: NOV 30 2007
- 3. **Generation of germline-competent induced pluripotent stem cells**
 By: Okita, Keisuke; Ichisaka, Tomoko; Yamanaka, Shinya
 NATURE Volume: 448 Issue: 7151 Pages: 313-U1 Published: JUL 19 2007
- 4. **The homeoprotein Nanog is required for maintenance of pluripotency in mouse epiblast and ES cells**
 By: Mitsui, K; Tokuzawa, Y; Itoh, H; et al.
 CELL Volume: 113 Issue: 5 Pages: 631-642 Published: MAY 30 2003
- 5. **Generation of induced pluripotent stem cells without Myc from mouse and human fibroblasts**
 By: Nakagawa, Masato; Koyanagi, Michiyo; Tanabe, Koji; et al.
 NATURE BIOTECHNOLOGY Volume: 26 Issue: 1 Pages: 101-106 Published: JAN 2008
- 6. **RETRACTED: Visfatin: A protein secreted by visceral fat that mimics the effects of insulin (Retracted article, see vol 318, pg 565, 2007)**
 By: Fukuhara, A; Matsuda, M; Nishizawa, M; et al.
 SCIENCE Volume: 307 Issue: 5708 Pages: 426-430 Published: JAN 21 2005
- 7. **Generation of Mouse Induced Pluripotent Stem Cells Without Viral Vectors**
 By: Okita, Keisuke; Nakagawa, Masato; Hong, Hyenjong; et al.
 SCIENCE Volume: 322 Issue: 5903 Pages: 949-953 Published: NOV 7 2008
- 8. **A more efficient method to generate integration-free human iPS cells**
 By: Okita, Keisuke; Matsumura, Yasuko; Sato, Yoshiko; et al.
 NATURE METHODS Volume: 8 Issue: 5 Pages: 409-U52 Published: MAY 2011
- 9. **Suppression of induced pluripotent stem cell generation by the p53-p21 pathway**
 By: Hong, Hyenjong; Takahashi, Kazutoshi; Ichisaka, Tomoko; et al.
 NATURE Volume: 460 Issue: 7259 Pages: 1132-U95 Published: AUG 27 2009

2017	2018	2019	2020	2021	Total	Average Citations per Year
5015	4836	4759	2479	0	58480	3077.89
1214	1130	1122	604	0	14206	947.07
957	914	914	463	0	11290	806.43
146	126	132	66	0	2963	211.64
104	82	77	29	0	2215	123.06
91	85	77	27	0	1847	142.08
53	60	61	26	0	1369	85.56
72	57	41	22	0	1368	105.23
136	144	126	58	0	949	94.90
59	41	55	20	0	895	74.58

Researchers Hayato Ohshima



Hayato Ohshima

Web of Science ResearcherID[®]
AAW-5545-2020

論文数	総被引用数	H-index	査読数
PUBLICATIONS	TOTAL TIMES CITED	H-INDEX	VERIFIED REVIEWS
157	2,898	31 [®]	46

- 論文から査読・編集委員の実績まですべてを一括管理
- 最新の被引用数などを簡単に世界に発信
- Web of Scienceとの連携

- Summary
- Metrics
- Publications
- Peer review

ANATOMY DENTISTRY DEVELOPMENTAL BIOLOGY

+ VIEW FULL BIO & INSTITUTIONS

Verified reviews

SPRINGER NATURE	(9) Histochemistry and Cell Biology	WOS	SPRINGER NATURE	(6) Anatomical Science International	WOS
WILEY	(6) International Endodontic Journal	WOS	WILEY	(5) The Anatomical Record	WOS
WILEY	(3) Cell Proliferation	WOS	SPRINGER NATURE	(3) Surgical and Radiologic Anatomy	WOS
WILEY	(2) Cell Biochemistry and Function	WOS	WILEY	(2) Congenital Anomalies	WOS
WILEY	(2) Journal of Cellular Physiology	WOS	WILEY	(2) Journal of Periodontal Research	WOS
WILEY	(1) European Journal of Oral Sciences	WOS	SPRINGER NATURE	(1) In Vitro Cellular & Developmental Biology - ...	WOS
WILEY	(1) Journal of Anatomy	WOS	WILEY	(1) Journal of Clinical Periodontology	WOS
WILEY	(1) Journal of Investigative and Clinical ...	WOS	WILEY	(1) Oral Diseases	WOS

	TIMES CITED
defects in bone growth and ectodermal organ	546
see more	
rat maxilla: Ultrastructural and histochemical	93



信頼性のある知見と分析を提供

Web of Science

学術データベース

情報共有

publons

論文・査読・編集委員の実績を管理

KAKEN

科学研究費助成事業データベース

科研費
KAKENHI

情報利用

e-Rad

Research and Development

競争的資金の応募・成果報告



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE
日本学術振興会

学術振興



出版社

loop

情報共有



アメリカ合衆国連邦政府の医学図書館

PubMed.gov

学術データベース



出版社

Scopus

学術データベース

CiNii

日本の論文データベース

医中誌Web

Japan Medical Abstracts Society

日本語学術データベース

JREC-IN Portal

for all researchers and research staff

キャリア形成支援

情報利用

J-GLOBAL

科学技術情報支援



新潟大学 研究者総覧
Researchers, Niigata University



文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

科学技術振興

ORCID

研究と研究者を結び付ける

研究者の一意的な識別子を付与し、研究者の負担を軽減する学術情報基盤の構築

情報共有

情報利用

researchmap

研究者が業績を管理・発信できるようにすることを目的とした、データベース型研究者総覧

情報利用

Key Question

私たちは、魅力的なプレゼンテーションをするためには どうしたら良いのでしょうか？



遺伝研メソッド 科学プレゼンテーション

- 科学者として生きてゆくために不可欠となる技術
- 「**あなたの研究**」と「**あなた自身**」を売り込む
- 聴衆に「あなたが何をやったか」「あなたが何を考えるか」を伝える
- 「あなた」のことを十分に理解してくれた聴衆から、役に立つフィードバックを得る
- 「自立したプロフェッショナルな科学者」を聴衆に印象づける
 - Key Question
 - Perspective Frame
 - 導入部
 - 全体の構成
 - 実験方法
 - 実験結果
 - 結語

From 国立遺伝学研究所「遺伝研メソッドで学ぶ科学英語プレゼンテーション」

Key Question

- 科学プレゼンテーションの基本は、“question-oriented”であること
- プレゼンテーションで紹介する研究の結論が答えを与えることになるquestion
- プレゼンテーションの内容に直結した具体的な疑問のことをkey questionとよぶ
- 科学プレゼンテーションでは、講演者はプレゼンテーション開始後すみやかに、自らの研究が取り扱うkey questionを明確に提示して、そのquestionを聴衆と共有しなければならない
- 「何を知りたいのか」「何を確かめたいのか」さえはっきり伝えることができれば、納得した聴衆は味方になってくれる
- **問題点1**: key questionが不明瞭→聴衆はゴールを見失ってしまい、話の流れから脱落してしまう
- **問題点2**: key questionの提示が遅い→「key questionはこれだ！」と認識して、初めて、プレゼンテーションの目的を理解でき、それに対する答えを楽しみに、集中して残りの部分を聞き始める
- すべての聴衆に自分の問題意識を共有してもらうためには、文字を使ってkey questionをスライド上に表現するのはもっとも確実な方法
- 概して、研究結果に直結した具体的なquestionを提示するほど、焦点が絞られた研究であることをアピールでき、聴衆をゴールに向かって確実に誘導できる

Perspective Frame

- ある視点からkey questionを眺めて、その意義や価値を説明する情報のことを、perspective frameと呼ぶ
- Perspective frameとは、画家が絵画を描くときに使う枠のことで、この枠を通して対象物を見ることで描き出す世界の構図を決定する(図)
- 聴衆は、講演者が設定したperspective frameを通してkey questionを眺めることになる
- なぜkey questionを解きたいのか、その背後にある動機を説明する部分になる
- 科学プレゼンテーションは、perspective frameを紹介することからはじまる→key questionの面白さを聴衆に伝える
- Key questionに対する聴衆の期待を高め、これから聞くことになる研究結果の真価が認識できるように聴衆に準備させる
- もっともよく見かけるperspective frameは、key questionを含有するような一般的な広い興味、すなわちbig pictureの提供
- 問題3 : key questionとperspective frameとの乖離
- 問題4 : key questionを抱く動機がわからない
- Perspective frameの狙いは、後で登場する結論に対して、あらかじめ布石をうっておき、聴衆に心の準備をさせておく



導入部

- プレゼンテーションの導入部とは、perspective frameを提示して、key questionを紹介する部分
- 焦点の絞れたkey questionと、そのquestionの価値を十分に楽しめるだけのperspective frameが提供できれば、それで完璧
- 導入部に提示されたperspective frameは、プレゼンテーション全体を通して、聴衆の心理に多大な影響を与え続ける
- **問題点5**: 導入と背景説明の混同
- 多少の背景説明は必要になるが、それは最小限に留めて、key questionを魅力的に紹介することだけに注意を集中させる
- 導入部で与える情報は可能な限り絞り込み、key questionのエッセンスだけを誰もが理解できるに、身近な物にたとえたり、象徴的な表現方法を工夫したりして大きくざっくりと伝えるべきである

全体の構成

- 背景→方法→結果→考察といった論文の大項目構成は、プレゼンテーションには適さない→論文では、わからないことや読み落としたことがあれば、いつでも前に戻って読み返すことができる
- **問題点6**: 論文のような大項目構成はダメ→その時々に必要な情報を小出しに提供する
- **問題点7**: 論理の筋道が理解できない
- 科学プレゼンテーションは、多くの方が考えているよりも、話の筋、すなわちstory lineを必要とする
- 明確で理路整然としたstory lineを聴衆に印象づけるためには、各実験結果を提示する順番を考える→論理的に実験結果を並べる
- 各結果どうしをつなぐ表現をよく考える

実験方法と実験結果

- **問題点9: 実験方法の説明が細かすぎる**
 - 実験結果を理解するために、実験方法の手技自体を知る必要はない
 - 本質的な実験方法の原理や目的、すなわち「何を測っているのか」「何を狙っているのか」という情報のほうが遙かに重要
 - 実験手技の説明は最小限に留めて、明快なstory lineを作るように努める
 - 科学を楽しむ聴衆たちは、あなたが「どのようにやったか」でなく、「何をやったか」を知りたい
- **問題点10: 読み取りにくいデータ表示**
 - プレゼンテーションでは、限られた時間内に、結果を聴衆に理解させなければならない
 - 結果の視覚化はとても有効

結語

- **問題点11: 「結論」は「結果」の繰り返しではない!**
 - 科学プレゼンテーションの終わりには、研究の「結論」を示して、メッセージを聴衆の記憶にしっかりと焼き付ける
 - 「結論」とは、「結果」を既知の事実と有機的に結合して、聴衆のために解釈し直してあげたもの→key questionの答えとなる発見
 - “This is what we have learned”を聴衆に伝える
- **最後にもperspective frameを示そう**
 - プレゼンテーションの最後は、「結論」からさらに一歩進めて、perspective frameを示してからしめくくる
 - 残された課題について言及することも、最後のperspective frameの重要な要素
 - 異なる新しいperspective frameを提供することもできる

Key Question

私たちは、英語の「三拍子」を論文・プレゼンに活かすためには どうしたら良いのでしょうか？



プレゼンテーションの骨組み

- 「長さ」(与えられた時間)を意識する必要がある
- 学術的な論文・プレゼンの場合には、**序論・本論・結論の三部構成**にするのがよい
 1. **序論**: 「何が問題か」を述べる。なぜこの問題を取り上げたのか、この問題を取り上げることがなぜ重要なのか、問題の背景は何か
 2. **本論**: 分析と推論の展開、仮説を提示、それをデータによって検証する
 3. **結論**: 結論の含意、未解決の問題、扱わなかった問題、今後の課題



タイプのちがう3つの文章

- 科学論文とは、観察をもとにして科学者が自分の目を見たことを正確に報告するもの
- 日本語では「観察」と「報告」の関係が少々曖昧
- 「何かを説明する英語の文体には3つの種類がある」
 1. **Narration (ナレーション)**: 「何かについて、事件が起きた順に時系列に説明する」こと
 2. **Description (ディスクリプション)**: 「何かを観察する場合、客観的な事実を中立的に述べる」こと
 3. **Exposition (エクスポジション)**: 「自分の意見や感情を入れながら説明する」





タイプのちがう3つの文章

- Introduction (緒言) : **ディスクリプション** (「過去にはこのような事実があった」という研究の背景を述べる)
- Materials and Methods (材料と方法) : **ナレーション** (実験の経緯を述べる)
- Results (結果) : **ディスクリプション** (「このような結果が得られた」と述べる)
- Discussion (考察) : **エクスポジション** (Resultsを受けて「私はこう解釈する」と述べる)
- Conclusion (結論) : **エクスポジション** (著者の最終的な見解が述べられる)



英語に「起承転結」はない

- **起承転結**：問題提起→起を承けた展開部分→論理をいったん転ずる→まとめ（「**四拍子**」の展開）
- 英語では、「転」のない文章展開が論理的
- 論理的なまとまりをもった文章を英語で書くときには、まず大きな枠組みをつかみ、だんだん細かくしぼりこんでいくことが原則
- 論理的な英文は通常、**Introduction**（イントロダクション：序論）、**Body**（ボディ：本論）、**Conclusion**（コンクルージョン：結論）の3つの要素から構成される。→「英語の基本は**三拍子**」
- **イントロダクション**は、「私は今からこのトピック（＝テーマ）について話します」と表明し、**ボディ**は、「私は今、このトピックについて話しているのですよ」と、読み手に念を押し、**コンクルージョン**は、「私はこのトピックについて話しました」としめくくる役割がある。



パラグラフも三拍子

1. **Topic sentence** (トピックセンテンス = **イントロダクション**) = 一般的な事実
 - そこで扱うトピックが何であることを述べる。
 2. **Supporting sentence** (サポーティングセンテンス = **ボディ**) = 事実の具体的な裏づけ
 - トピックセンテンスをしっかりと支えるための展開部
 - とりあげたトピックの背景、問題点、別の意見など、裏づけとなるいろいろな情報を述べる。
 3. **Conclusion sentence** (コンクルージョンセンテンス = **コンクルージョン**) = 述べてきた事実に対する意見
 - 書き手の意見を述べて終わりにする。
- 英語のパラグラフは日本語の段落とはイコールでない。



論文の単位 - パラグラフ (paragraph)



- 「**パラグラフ**は、まとまったひとつのテーマについて述べるいくつかの文の集まりである」
- 「まとまったひとつのテーマ」を論ずる。
- 単語 (word) や文 (sentence) と同様に、**文章の単位** (unit of writing) に相当する。
- **パラグラフ**は基本的に、「**三拍子**」の要素から構成される：まずはじめに、パラグラフが扱おうとするテーマや、考えのポイントを紹介する**トピックセンテンス**が置かれ、**サポーティングセンテンス**、**コンクルージョンセンテンス**が続く。



英語の骨格:「三拍子」 の中の「三拍子」



- 英語の「三拍子」が最もはっきり反映されているのは、論文の最初に置かれる**Abstract** (またはSummary): 1)研究の目的、2)対象と方法、結果、3)結論の3つを明記する。 → 扱うテーマ、それを支える事実、結論の三拍子がそろった、いわば論文のミニチュア
- AbstractやSummaryをさらに詳しくすると一編の論文: "**IMRAD**" (Introduction, **M**aterials and Methods, **R**esults, and **D**iscussion)
- **Introduction**: 1)論文全体が取り扱うトピックについて一般的な言葉で導入する、2)筆者の一番言いたいこと(thesis statement)をここで述べることによって、その論文を何のために書くかを明らかにする。
- 一般的な言葉で始まり、最後に筆者自身の意見へとしぼりこんでいく最初のパラグラフは、まさしく「じょうご」に論理を流し込む。
- 最後の**Conclusion**に求められるのは、Introductionの要約あるいは言い換えであり、最終的な書き手の意見を述べる。
- **Materials and Methods**と**Results**と**Discussion**が**ボディに相当し、論文全体のトピックを支える事実を述べる。**
- 論文全体の「三拍子」の中に、いくつもの子どもの「三拍子」が入っている。

From ジャン・プレグنز: ジャンさんの「英語の頭」をつくる本ーセンスのいい科学論文のために

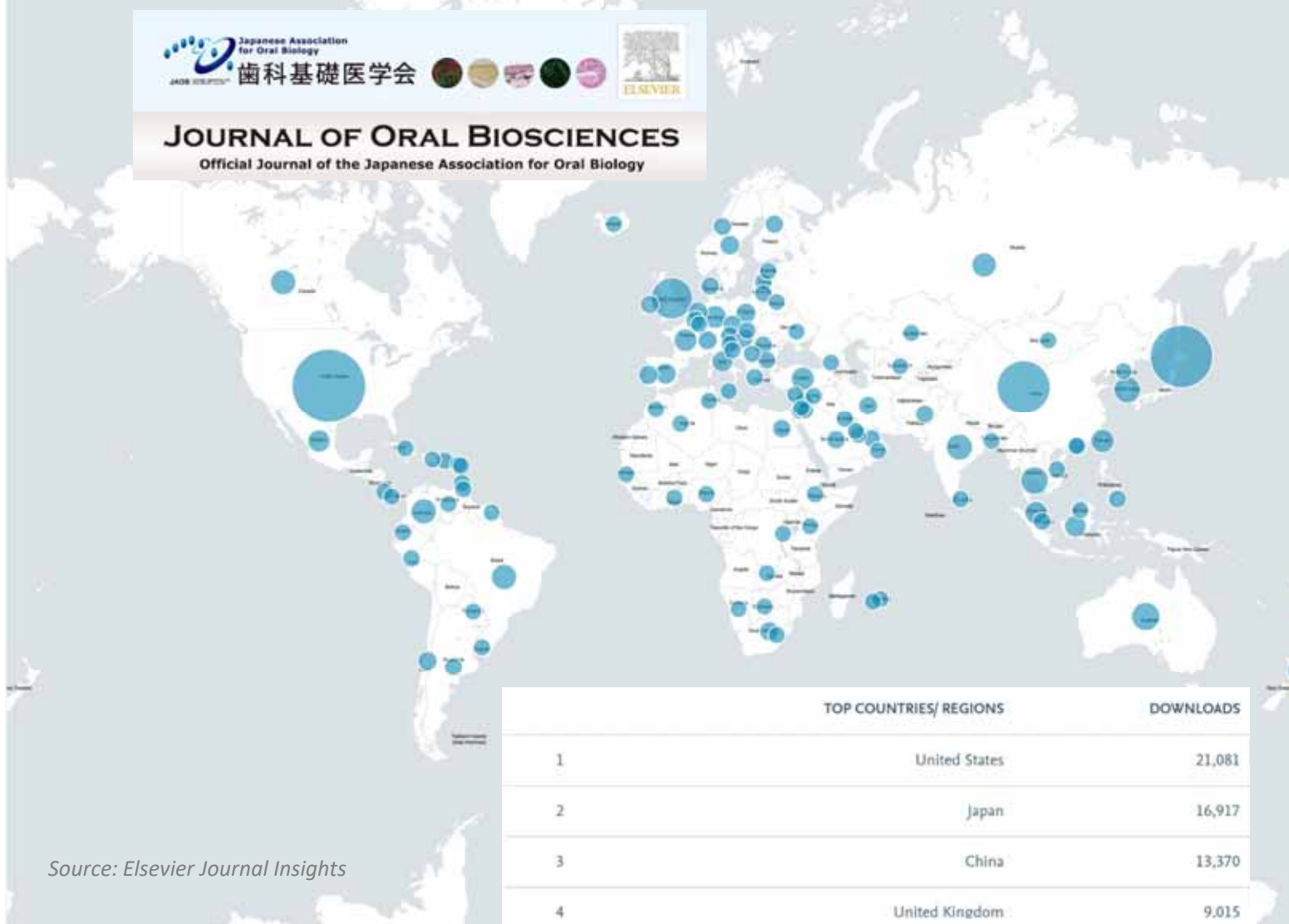
Downloads

*Journal of Oral Biosciences*の出版論文は世界全域からダウンロードされています。

<http://www.journaloforalbiosciences.org/>



Access!



	TOP COUNTRIES/ REGIONS	DOWNLOADS
1	United States	21,081
2	Japan	16,917
3	China	13,370
4	United Kingdom	9,015

Source: Elsevier Journal Insights





JOURNAL OF ORAL BIOSCIENCES

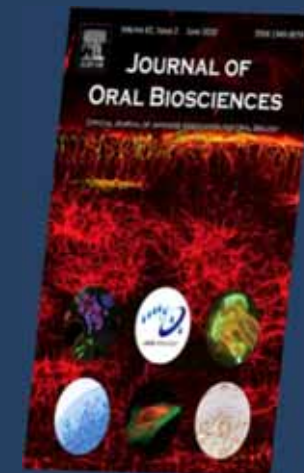
Official Journal of the Japanese Association for Oral Biology

- Journal of Oral Biosciences (JOB) 誌は皆様の投稿をお待ちしています！
- JOB誌の発展は歯科基礎医学会の発展に繋がり、学会の発展は歯科医学の発展に繋がる。



JAOB JAPANESE ASSOCIATION FOR
ORAL BIOLOGY since 1958

DENTISTRY



- 新潟大学 研究企画室URA: 知りたいことだけサクッと科研費セミナー「科研費対応！これで完成！！Researchmap作成」2019年秋
- 新潟大学 研究企画室URA: 知りたいことだけサクッと科研費セミナー「researchmapにつながる！ORCIDによる論文業績の効率的な管理」2019年11月
- Web of Science Group: Show Your Research Impact! — Publonsで業績を管理・公開 - 2019年9月
- 野口悠紀雄著: 「超」文章法 伝えたいことをどう書くか. 中央公論新社刊
- 国立遺伝学研究所(平田たつみ タジ・ゴルマン 広海健)著: 「遺伝研メソッドで学ぶ科学英語プレゼンテーション」株式会社dZERO、2016年
- ジャン・プレゲンス著: ジャンさんの「英語の頭」をつくる本—センスのいい科学論文のために. インターメディカル、1997年
- 第119回日本解剖学会 Prof. Paul K. Nakane 特別講演
- 鈴木厚人著: 「研究費等補助金の不正使用に一言」(2007年東北大学泉萩会々報より)